

序

本校創立四十周年にあたり、茲に記念論文集を公にする。永い戦争に疲れ又敗戦後、社會・經濟・政治の變動の中に、窮乏の生活に堪えつゝ、外國の新書も手に入らず、在庫の限られた書物を相手に、思索と研究をつづけることは、まことに並々ならぬ苦心であつた。

ファウストの中で、悪魔のメフィストフェレスが、『をれは君に言ふがね、思索ばかりしてゐる男は、獸が荒野原で、悪魔にぐる／＼引張り廻はされてゐるようなものさ。その外まはりには美しい青々とした牧場がある』Ich s'ges dir: ein Kerl, der spekuliert, Ist wie ein Tier, auf dünnen Heide. Von einem bösen Geist im Kreis herum geführt, Und rings umher liegt schöne grüne Weide. と言つてゐるところがある。

無論これは悪魔が學者を嘲笑する聲であるが、戦時戦後を通する缺乏の内
にこの成果をあげることが、事實この草の無い荒野原に立つ以上の困難であ

った。しかしこの荒野原を、泣いても嘲られても努力して、立派な牧場にしなればならないのが、日本の現状であり、研究者の任務では無からうか。

大せいの人々が、自己の生活と金儲けに汲々としてゐるとき、悪魔は再び「一切の理論は灰色だ。だが黄金なす生活の木は緑だ。 *Grün ist alle Theorie, Und grün das Leben goldner Baum.*」とあち笑ふかも知れない。然し俗念を去つて、黙々とほたらく研究者こそ、今日の、いや明日の日本を救ふ地の鹽である。

本論文集が、學界と讀者に何を興へるであらうか。それは私が説明するより、本書自體がよく説明してくれるであらう。私はただ、叩く者は開かれ、努力して止まぬ者は、常に救はれることを信じ、向上せんとするところに、最高の善を見出し度い。

昭和二十一年十二月

長崎經濟專門學校長

大畑文七

昭和二十二年八月廿五日印刷 (禁脚戲) 經營と經濟 第二十六年
昭和二十二年八月三十日發行 合 册

長崎經濟專門學校創立四十周年記念論文集

定價金 參拾圓

長崎經濟專門學校產業經營研究所

編輯兼發行人

西山淳次

長崎市櫻津町七番地

印刷所 藤木喜平

長崎市片淵町三丁目

發行所

長崎經濟專門學校產業經營研究所

會員番號B 一一四〇〇二

配給元

日本出版配給株式會社